



No.422

平成30年12月25日

編集発行 富山県教育委員会

発行人 教育企画課長

教委だより

特集 Stop! ザ・ネットトラブル (p2)



ハンドボール競技 少年男子 氷見高校



ホッケー競技 少年女子 石動高校



ボート競技 少年男子 富山選抜 (中島選手・鎌田選手)



ホッケー競技 少年男子 石動高校

2018福井しあわせ元気国体 (第73回国民体育大会)

去る9月29日(土)から10月9日(火)まで、2018福井しあわせ元気国体(第73回国民体育大会)が福井県(一部競技は石川県、静岡県で実施)において開催されました。

高校生が大活躍した今大会では、ハンドボール競技少年男子(氷見高校)、ボート競技少年男子ダブルスカルの中島湧心選手(八尾高校)・鎌田祐生選手(八尾高校)が見事優勝を勝ち取ったほか、ホッケー競技少年男子(石動高校)・少年女子(石動高校)、陸上競技少年男子A100mの辰巳新選手(富山第一高校)、水泳競技少年男子B100m背泳ぎの平野洋康選手(高岡高校)が準優勝を果たすなど、今後一層の活躍が期待されます。

このほか、ハンドボール競技での競技別総合優勝やバドミントン競技成年男子、ウエイトリフティング競技成年男子の優勝をはじめ、64種目(少年種別29種目)で入賞を果たしました。

Contents (主な内容)

- 特集 Stop! ザ・ネットトラブル ……2p
- 第23回 富山県中学校文化祭 ……3p
- 第30回 富山県高等学校文化祭 ……3p
- キャリア教育指導者養成研修 ……4p
- 教職員の多忙化解消にむけて ……4p
- 平成30年度 教育功労者等表彰式 ……4p
- 「高志の国文学」情景作品コンクール 及び「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式開催…5p
- 「英語学習パートナー」派遣事業 ……5p
- 第36回 富山県駅伝競走大会について ……6p
- 第18回 全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」…6p
- 子どもとやま県議会 ……7p
- 平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査 …7p
- 富山マラソン2018 ……7p
- 学校給食とやまの日の取組み ……8p
- 夢の卵 育成事業 ……8p
- わくわく古代チャレンジ2018 ……9p
- インフォメーション ……9p
- 総合教育センターNOW ……10～11p
- 学校レポート 高大接続改革を見据えた変革期の取組
—「新たな学び創造事業」拠点校として—
富山県立砺波高等学校 ……12p
- リレーエッセイ「限られた時間の中で」
富山県小学校教育研究会長 富山市立大広田小学校長
井沢 康一 ……12p

特集

Stop! ザ・ネットトラブル

~その8~

危険！個人が特定

ネットパトロールで、県内の児童生徒がSNSに投稿する内容を見ると、個人が特定される危険性が高いものを見かけます。プロフィールや過去の投稿に具体的な氏名や学校名の記載がなくても、これまでに投稿した写真や動画の情報、友だちの投稿など、断片的な情報を繋ぎ合わせると個人が特定されてしまう場合があります。SNS利用者の中には、不適切な投稿をした人物をこらしめてやろうと考える者や、投稿者の個人情報を探って悪用しようとする者もあり、トラブルにあわないよう注意が必要です。



自宅近くの風景写真から住んでいる地域を特定



友だちが書いた投稿から顔写真や名前を特定



学校の行事や制服から学校名を特定

写真の中の建物や地域の行事でも生活範囲は憶測できます。SNSの公開・非公開、自分の投稿を読んでいい人の範囲設定、ハッシュタグ(#)を付けない等の対策が有効です。

SNS疲れ

*「いいね」: SNSの利用者が、気に入った投稿に対して共感を伝える機能。「いいね」の数値は注目度の目安になる。

SNSを利用していると、自分の投稿に対する他人の反応がとても気になるものです。「友だち」の登録数や「いいね」*の数を気にするあまり、SNSのことが頭から離れなくなり、SNSの利用に疲れて悩んでいる生徒もいます。



子ども達にとって、SNSは利用しなければならないものではありませんし、「友だち」の数や「いいね」の数は人を評価する指標ではないことを理解させましょう。そして、SNSの利用を控えたり、時間の使い方を見直す機会にしましょう。

トピックス

子どもの性被害「SNSに起因」に注意

警察庁が今年上半期の「子どもの性被害状況」などを発表し、SNSに起因する子どもの被害は856人で、前年同期比6.9%の減少で、昨年下半年に続き減少傾向が続いています。しかし、いまだに、多くの子ども達が性被害に遭っており、その内の約9割が中高校生です。

NHKスマホリアルストーリーに学ぶ

この番組は、実際にスマホを持った小学生の体験に基づいた再現ドラマで、スマホとの付き合い方を学ぶ教材として授業で利用できます。動画にアクセス

放送リスト
ゲーム課金 架空請求
グループはずし なりすまし
画像流出 各10分



第23回 富山県中学校文化祭

8月19日、「つくらんまいけ!富山をつなぐ文化の『輪』」のスローガンのもと、第23回富山県中学校文化祭が行われました。全国中学校総合文化祭が来年夏に富山で開催されることを受け、県民会館と教育文化会館の2会場で、音楽や演劇、美術等11部門で日頃の活動の成果を披露しました。会場には中学生や保護者が多数来場し、みずみずしい感性が光る作品やステージ発表に見入っていました。

また、8月24日の全国中学校総合文化祭長崎大会には八尾中学校郷土芸能部と生徒実行委員が参加、来年に向けて富山をアピールしてきました。



速星中学校吹奏楽部による演奏

第30回 富山県高等学校文化祭

第30回富山県高等学校文化祭が10月26日～28日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。開会式では、郷土芸能のオープニングに続き、今年のテーマ「未来に伝えよう 君の想い 君の輝き」にあわせて、30年引き継がれ、次の30年にも残したい各専門部の魅力や想いを生徒実行委員が伝えました。

日々文化活動に励む高校生の創造性あふれる作品展示やステージ発表は、会場を訪れた観覧者を魅了しました。



開会式 生徒実行委員による専門部紹介

キャリア教育指導者養成研修（全2回）ー今年も富山県で開催！ー

今年度も独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）と富山県の主催によるキャリア教育指導者養成研修が本県で開催されました。この研修は、国の地方創生にかかる取組みである「政府関係機関の地方移転」の一環として平成28年度から実施されているものです。

第1回は7月、第2回は9月に高志会館で行われました。各回とも教育委員会の指導主事や小中高校の教員ら約100名が全国から参加し、グループワークやポスターセッションなど多様な形式で研修を深めました。受講者からは「キャリア教育を推進するためのポイントや評価の観点を学ぶことができ本当に有意義であった。」などの声が聞かれました。



講義の様子



受講者による熱心な協議

教職員の多忙化解消にむけて

～「校務の業務改善マネジメントセミナー」を高志会館で開催！～

昨年に続き、「政府関係機関の地方移転」における研修機能の一部移転の一環として、「校務の業務改善マネジメントセミナー」が本県で開催されました。本セミナーの目的は、学校現場における業務改善の取組みの一体的・統合的な推進のために必要な知識や具体的な方策等について、教育委員会や学校関係者等による研究協議等を通じて深めることです。

全国から130名が参加し、講義や事例発表をもとに、熱心な協議が行われました。



事例発表者とのトークセッションの様子



熱心に講義を受ける受講者

平成30年度 教育功労者等表彰式

11月1日（木）、平成30年度富山県教育委員会教育功労者等表彰式が県庁で行われました。

この表彰式は、学校教育や社会教育、文化やスポーツの分野で優れた業績をあげた方を表彰するもので、今年度は、48個人と24団体が選ばれました。

学校関係では、優良教職員として22名、優良教職員組織として1団体、優良学校として7校、優良児童生徒として3名、優良体育・スポーツ活動推進者として4名・10団体が受表彰されました。

渋谷教育長は式辞で、「今日、教育県富山として全国に誇りうる教育を展開しているのも、皆様方の比類ない使命感と不断の努力の積み重ねに負うところが大きい。」と功績をたたえられました。受表彰者の皆様の、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



「高志の国文学」情景作品コンクール及び 「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式開催

10月29日(月)、「高志の国文学」情景作品コンクールと「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式が高志の国文学館で行われました。2つのコンクールの入賞者75名を代表して、知事賞8名、生誕1300年記念大伴家持青少年特別賞8名の児童・生徒に石井知事から賞状が授与されました。家持青少年特別賞は、今年が大伴家持の生誕1300年にあたることから、大伴家持生誕1300年記念事業の一つとして設けられました。

石井知事からは「皆さんが生まれ育ったふるさとへの誇りや愛着、家族や地域の方々との絆を大切にしながら、富山県の未来を切り拓く人材へと、大きくたくましく成長されることを心から期待しています。」と激励を受けました。また、高志の国文学館の中西 進 館長からは、「身の周りの風景や出来事などに感動できる心を持ち続けてもらいたい。」とのお言葉をいただきました。その後、「高志の国文学」情景作品コンクール文芸部門(散文・詩、短歌・俳句)で知事賞を受賞した高岡高校2年 亀遊 堯子 さんが2つのコンクールの受賞者を代表し、感謝の言葉を述べました。

今年度、情景作品コンクールには、文芸や美術、写真部門に計2,937点、作文コンクールには2,577点の応募がありました。



石井知事からの賞状授与



中西館長のあいさつ



感謝の言葉を述べる受賞者代表(高岡高校2年 亀遊 堯子 さん)

「英語学習パートナー」派遣事業

小学校では、今年度から新学習指導要領の移行期間がスタートし、3～6年生で外国語活動の授業が行われています。県教育委員会では、外国語活動の授業を支援するため「英語学習パートナー派遣事業」を実施しています。

本事業は、児童の英語でのコミュニケーションへの意欲向上を図ること、そして、教員志望の大学生の資質・能力等の向上を図ることを目的として、英語が得意な大学生を小学校に派遣し、外国語活動の指導補助に取り組んでいただき、指導を一層充実させるものです。

富山大学、富山国際大学の学生18人が、6月以降県内の小学校15校に派遣されています。児童からは「分からない言葉を優しく教えてくれる」「分からないときに質問しやすい」と好評です。

また、先生方からは、「コミュニケーションが苦手な児童のそばに寄り添ってくれる」「担任とALTのよい橋渡し役となっている」との声が聞かれるとともに、「英語でALTと話をする姿が児童の憧れの存在、目標となしてほしい」「この経験を教員になったときの実践につなげてほしい」と、未来の教員たちへ大きな期待も寄せられています。

本事業を通して、外国語教育の充実、そして児童の英語への興味・関心やコミュニケーションへの意欲の向上につなげていきたいと考えています。

第36回 富山県駅伝競走大会について



県内12郡市代表の選手が健脚を競う「第36回富山県駅伝競走大会」が秋晴れの越中路で開催され、富山～高岡間 往復18区間42.5kmで熱戦が繰り広げられました。富山市は、他郡市の追従を許さず、大会記録を2分28秒更新する新記録で大会10連覇を果たしました。2位には、4人が区間賞の走りを見せた中新川郡が、3位には昨年の6位から大きく躍進した砺波市が入りました。

小学5、6年生の男女10人で構成する12郡市が順位を競う富山県小学生駅伝競走大会では、沿道に詰めかけた大勢の方々の声援を受けながら、タスキをつなぎました。



小学生たちのスタート

第36回県駅伝競走大会 結果

1位	富山市	2時間09分49秒
2位	中新川郡	2時間18分15秒
3位	砺波市	2時間18分53秒
4位	南砺市	2時間19分13秒
5位	魚津市	2時間19分23秒
6位	高岡市	2時間19分37秒

区間新記録

11区 (中学女子) 1.8km	中才 菜子 (富山市) 5分34秒
15区 (高校女子) 1.8km	飯山 藍佳 (富山市) 5分42秒
17区 (一般・高校女子) 2.1km	根塚みのり (富山市) 6分26秒
18区 (中学女子) 2.2Km	柳楽あずみ (富山市) 6分47秒



勢いよくスタートする選手たち

写真：読売新聞北陸支社提供

県小学生駅伝競走大会 結果

1位	富山市	28分33秒
2位	高岡市	29分05秒
3位	射水市	29分14秒
4位	小矢部市	29分57秒
5位	砺波市	30分05秒
6位	黒部市	30分10秒

第18回 全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」

10月13日(土)から15日(月)まで「織りなそう 力と技と美しさ」を大会スローガンに、第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」が開催されました。

本県からは、陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリングの6競技のべ58種目に、県内の学校(5校)に所属する8名の生徒を含む31名の選手が参加しました。

参加された皆さんは、それぞれの目標にチャレンジし、大会では、金メダル11個、銀メダル15個、銅メダル7個、計33個のメダルを獲得するなど、すばらしい活躍が見られました。



富山県選手団の皆さん



子どもとやま県議会



8月23日、県内25小学校の5・6年生40名の子ども議員が県議会議事堂に集い、平成30年度「子どもとやま県議会」が行われました。

今年度は、「活力・未来・安心・心」の4委員会から、地域の魅力を動画等で世界に発信し、富山の観光を盛り上げる提案や、最新技術を使った農業のよさを伝えることで農業のイメージアップを図る提案、地域のよさを生かしたまちづくりをすることで、人が集まる賑わいを創出する提案、年齢や性別、障害の有無に関わらず交流できる場をつくり、みんなが温かい心をもつ富山県を目指す提案が出され、熱心な質疑応答の後、いずれも可決されました。

最後に、石井隆一県知事から「これからの大いなる可能性のある人生を、勇気をもってたくましく切り拓いてもらいたい」との激励の言葉をいただきました。



子ども議員の発表（安心委員会）

平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査 — いじめ・不登校・暴力行為 —

文部科学省の「平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が、10月に公表されました。
（ ）は、本県の1,000人当たりの認知件数

いじめの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
H29	459 (8.9)	363 (13.1)	76 (3.3)	6 (4.9)	904(8.7 国33.9)
H28	482 (9.1)	387 (13.6)	94 (4.0)	9 (7.4)	972(9.2 国26.2)

いじめの認知件数は、28年度と比べ、小学校・中学校・高等学校で減少しました。1,000人当たりの認知件数は、全ての校種で全国平均（小：49.0、中：25.0、高：4.9、特：14.1）を下回っています。

（ ）は、本県の1,000人当たりの不登校児童生徒数

不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
H29	276 (5.4)	631 (22.8)	317 (14.2)	1,224(12.0 国15.1)
H28	194 (3.7)	608 (21.3)	298 (13.3)	1,100(10.6 国14.1)

不登校児童生徒数は、28年度と比べ、小学校で大幅に増加し、中学校・高等学校でやや増加しました。1,000人当たりの人数は、全ての校種で全国平均（小：5.5、中：33.8、高：16.8）を下回っています。

（ ）は、本県の1,000人当たりの発生件数

暴力行為の発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
H29	147 (2.9)	185 (6.7)	21 (0.9)	353(3.4 国5.1)
H28	61 (1.2)	117 (4.1)	28 (1.2)	206(2.0 国4.7)

暴力行為の発生件数は、28年度と比べ、小学校・中学校で大幅に増加しましたが、高等学校では減少しました。1,000人当たりの発生件数は、全ての校種で全国平均（小：4.4、中：8.9、高：1.9）を下回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

富山マラソン2018



「富山マラソン」は2015年3月の北陸新幹線開通を契機としてスタートした県内最大級のフルマラソン大会で、4回目の「富山マラソン2018」には国内外から1万3千人を超えるランナーが出走しました。

高岡古城公園周辺をスタート地点とし、“ものづくりの街 高岡市エリア”から新湊大橋など“海と大地の恵み 射水市エリア”を通り、晴天時には立山連峰の大パノラマを楽しみながら“環境未来都市 富山市エリア”の富岩運河環水公園でゴールするもので、ランナーに雄大な自然や伝統、文化を満喫してもらえるコース設定となっています。

また、沿道には、伝統芸能を交えた応援イベント、名水、ます寿し及び富富富（ふふふ）を使った白えび天むすなどの給水・給食を配置するほか、本年の新企画としてランナーからリクエストのあった歌を応援ソングとして流しました。

多くの県民の皆さんに沿道応援やボランティアとして参加していただいております。富山県ならではの心温まる大会として、ランナーからも年々高い評価を受けるようになっていきます。



学校給食とやまの日の取組み

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、地元の農作物や県内食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者が協力して、地域の食材をふんだんに取り入れた、特色ある献立が提供されています。

立山町では、11月15日(木)に「学校給食とやまの日」が実施されました。給食には、立山町産の古代米、米粉、大豆、キャベツ、えのきたけ、小松菜、生姜、大根、さといも、ねぎ、豚肉等を取り入れた「大豆入り古代米ごはん、立山ポークのチャンチャン焼き、生姜びたし、立山の恵み汁、果物(ラ・フランス)」が提供されました。町内の小学校では、立山町学校給食センターの森真里子栄養教諭が献立に使用された地場産食材についての説明を行いました。



夢の卵 育成事業



(富山県ひとづくり財団)

小中学生の「将来こんなことがしたい」という「夢の卵(将来の夢)」を作文にしてもらい、優秀作品として表彰された皆さんは夏休み期間中その道の第一人者のもとへ短期入門し、夢をさらに大きく膨らませることができました。

ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんの「子どもたちには”夢の卵”を持ち続けて欲しい」というメッセージにヒントを得て、平成16年度から実施しており今年で15回目となりました。

小学生の部 2名(応募数1,325作品)



将来の日本の宇宙開発に貢献できる技術者になりたい

清水 詩音 さん(富山市立山室中部小学校6年)

種子島から人類を乗せたロケットを打ち上げ、子ども達に希望を与えたいという気持ちを持って、富山県立大学工学部電子・情報工学科に入門して、モデルロケットの製作から打ち上げまでを体験しました。



人の役に立つロボットを作る人になりたい

高瀬 心海 さん(富山市立速星小学校5年)

人の暮らしを良くする介護ロボットなどを作りたいという気持ちを持って、富山県立大学工学部知能ロボット工学科に入門して、ライントレースロボットの製作、プログラミングなどを体験しました。



中学生の部 2名(応募数804作品)



大地震を100%の確率で予測できる研究者になりたい

篠田 真吾 さん(高岡市立中田中学校2年)

大地震を予測して、その被害を減らしたいという気持ちを持って、名古屋大学減災連携研究センターに入門して、GPSによるプレート変動観測など地震予知につながる研究を学びました。



今後の日本の海を守る漁師になりたい

村上 統哉 さん(富山市立城山中中学校2年)

漁獲量が減り続ける日本の海には養殖の研究が欠かせないという気持ちを持って、福井県立大学海洋生物資源学部に入門して、地域の産学官が一体となって取り組む「鯖復活プロジェクト」などを学びました。



わくわく古代チャレンジ2018

富山県埋蔵文化財センター

埋蔵文化財センターでは、小学4～6年生を対象に「まが玉作り」などのさまざまな考古体験をとおして古代に生きた人々のくらしや知恵にふれる「わくわく古代チャレンジ2018」を夏休みに開催しました。

このうち親子で考古体験を行う「ふるさと考古学教室」では、「刀鍛冶を体験しよう」「藍染を体験しよう」「ガラスの装飾品を作ろう」などを行い、310組の親子が楽しみながら、古代の技に挑戦しました。「こども考古学クラブ」には、より歴史について学習したいという意欲をもった6年生が集まりました。3日間、午前は富山県の遺跡や出土品と関連させたクイズを解きながら学習、午後は「土器の復元」「土器の拓本」「土器の実測」の体験を行いました。参加者からは「昔のものづくりの大変さが体験を通して分かる良い機会になった」「歴史がもっと好きになった」などの感想をいただき、埋蔵文化財や地域の歴史への関心が深まりました。



ガラスの装飾品を作ろう



土器の実測をしよう

インフォメーション

場所 内容 対象 募集人数 応募要領
募集締切 参加料 ホームページ 問い合わせ

自遊塾 富山県民生涯学習カレッジ ☎076-441-8401
県民教授募集 平成31年度県民カレッジ自遊塾 県民教授募集

期日 平成30年12月3日(月)～平成31年1月11日(金)

富山県カレッジ本部 TEL076-441-8401

- 自主的に企画・発表したい
- 学んだことを生かして教えたい
- 学びを深め、交流したい

あなたも、県民カレッジ自遊塾の県民教授(ボランティア講師)になりませんか。

☎<http://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/>

自遊塾
県民教授募集

昨年度募集案内

見学者 富山県教育委員会小中学校課 ☎076-444-3452
募集 とやま学校ネットルールづくり発表会

—児童生徒の適切なネット利用の推進に向けて—

期日 平成31年2月26日(火) 14:00～16:30

富山県市婦中ふれあい館 ふれあいホール

小・中学校、高校各1校が、適切なネット利用のため取り組んできた「学校ネットルールづくり」等の啓発活動の実践を発表するとともに、児童生徒の安全なネット利用についてのパネルディスカッションを行います。

コーディネーター 兵庫県立大学 竹内 和雄 准教授

有識者 富山大学 長谷川春生 准教授、山田 正明 助教

入場無料 (参加自由) 公益財団法人富山県ひとづくり財団 ☎076-444-2000
アイディアロボットフェスタ「チャレンジデー」

期日 1月19日(土) 9:00～12:30

富山県高志会館 2階 カルチャーホール

講演会「村田製作所のロボット開発」(講師: 村田製作所 吉川 浩一 氏)、高校生、高専生が製作したロボットのデモンストレーションを行います。ぜひ、ご来場ください。



昨年のデモンストレーション

入館無料 富山県埋蔵文化財センター ☎076-434-2814
特別展 旧石器時代とはどのような時代だったのか!

期日 開催中～
平成31年3月21日(木)まで

県内から出土した旧石器を公開するほか、旧石器人はどのように暮らしていたのか、周辺の自然や動植物などの環境はどうであったかなど、今わかっている考古学の研究成果を通して紹介します。



展示解説会

参加者募集 富山県映像センター ☎076-441-8455
富山県視聴覚教育研修会

期日 平成31年2月8日(金) 14:00～

富山県教育文化会館 5階

- ①富山県映像センター、映像教材の紹介
 - ②講演「NHK for School」基礎セミナー
- 講師 エグゼクティブアナウンサー 前NHK富山放送局長 松井 治伸 氏



平成29年度開催風景

☎<http://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/> 詳細は文書でご案内します。

入学生募集 放送大学富山学習センター ☎0766-56-9230
平成31年度第1学期生(4月入学生)の募集

期日 3月17日(日) 必着(インターネット出願可)
放送授業開始: 4月1日(月)

放送大学は、BS放送やインターネットを通じて、教員の方が、仕事に役立つ科目を1科目から学べる通信制大学です。上位免許や特別支援学校教諭免許等を取得するために役立つ科目も開講しています。

放送大学
富山学習センター
放送大学で検索

総合教育センター NOW

教育研修部

新任教務主任研修会について

～教務主任としての資質向上のために～

今年度は、5月30日、8月6日、10月24日に実施しました。

第1回研修会では教務主任としての役割、第2回では合理的配慮を踏まえた特別支援教育、第3回では「主体的・対話的で深い学び」について、それぞれ講義や演習、班別協議を通して学びました。

今回は、第3回研修会の様子を紹介します。

講義では、富山大学人間発達科学部 講師 増田 美奈 先生より、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた今後の指導の在り方に関する示唆に富むお話がありました。受講者からは、心に残ったキーワードとして『話し合う』から『聴き合う』授業へ「居場所感（一人一人の子供が授業中どれだけ安心・安定しているか）」「分からないことを共有できる場」等が挙げられていました。感想の中にも「まず学習環境を整え、探究的な学びが生起するようにしなければならないと改めて実感した。聴き合える授業づくりに努力したい」「日頃、『分かったこと』に焦点を当てて授業していることに気が付いた。『分からない』と言える雰囲気をつくり、分からないことを共に考えることでより理解が深まる、との新しい視点を得た。つくづく学級経営が大切だと感じた」とあり、これまでの実践を振り返り、教務主任として授業改善に向けての意欲が感じられました。

講義後の分科会では、小・中・高・特支の校種ごとに分かれ、事前課題『主体的・対話的で深い学び』の具現化のための取組や「学校組織活性化のために大切な取組」を基に、勤務校での教務主任としての実践を振り返りながら協議しました。4～5人の小グループでの協議は、貴重な情報交換の場となり、先生方一人一人にとって有意義な研修の機会となりました。



全体会（講義）



分科会（校種別協議）

新規採用教職員研修会(幼稚園教諭) 特別支援学校参観

～「特別な支援を必要とする幼児への対応」について学ぶ～

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校で、授業参観と施設見学をさせていただきました。案内をしてくださった先生から、一人一人の実態に応じたきめ細やかな支援について、具体的な場面に基に詳しく教えていただきました。講義では、「気になる子への対応」「富山県の特別支援教育」「保護者を支える」という3つの視点からご指導いただきました。受講者の感想には、「目で見えないものには、気持ちや時間、空間、ルール等多くあり、これらが子供たちにとって不安要素になっていると聞き、普段の保育を見直さなければならないと感じた」「保護者とも固い信頼関係を結ぶことが大切であり、『この先生なら相談したいな』と思われるような保育者になりたいと思った」などがありました。

午後は、研修場所を富山県総合教育センターに変え、事前に提出した協議資料を基に、「特別な支援を必要とする幼児への対応」について情報交換しました。さらに「実態把握」「今後目指す姿」「支援や支援体制」について、より詳しく具体的な場面を想定して話し合いました。「子供たち一人一人を知ることができると改めて学んだ」などの感想がありました。



小学部の教室見学



「特別な支援を必要とする幼児への対応」についての班別協議

科学情報部

若手教員研修(初任者研修会)「校務の情報化」について



表計算ソフトで条件式の取り扱いを学ぶ

総合教育センター情報教育室では初任者教員を対象に「情報教育」「教科指導におけるICT活用」「校務の情報化」に関する研修を開講しています。今回は特別支援学校の初任者教員を対象とした「校務の情報化」に関する研修会を紹介します。

この研修会では、主に表計算ソフトを活用し、サンプルデータを使って平均、順位、評定を計算することで、基礎的な関数式や条件式を取り上げました。また、個人票の作成を通して、検索関数の仕組みやグラフ作成の方法も取り上げました。初任者教員には、この研修会を通して、素早く校務を処理できるようになり、そのことで出てきた時間を児童・生徒のために活用することを勧めました。

また、まとめとして表計算ソフトを使ってフラッシュ教材をつくり、グループで討議しました。児童・生徒の実態に合わせたいろいろなフラッシュ教材ができあがるので、グループ協議では見習いたい点や工夫すべき点が活発に話し合われました。受講した初任者教員の意欲の高まりが感じられる瞬間でした。

受講者からは「校務処理および授業準備の効率化のために大変勉強になった研修会であった」「フラッシュ教材を意外に簡単につくることができた。学校に帰ってもできそうだったし、PCや視聴覚教材を使うことで子供たちも積極的に授業に取り組むと感じた」など、PCやICT機器活用の意欲が高まったという意見や感想が多くありました。



作成したフラッシュ教材の発表

教育相談部

問題を抱える子ども等の自立支援事業について

不登校児童生徒及びその家族への支援

体験交流活動 年4回

- ・動物ふれあい 6月
- ・家族キャンプ 8月



・手作り工房 10月



・おもしろ科学実験 12月

人と関わる楽しさ、充実感、達成感を味わう

家族のためのセミナー

- ・専門家による講演(年2回)



不登校児童生徒への理解と対応
※小・中・高の保護者対象

地域訪問指導員による家庭訪問指導

- (滑川市、上市町、射水市、氷見市、南砺市で実施)
- ・家庭に引きこもっている児童生徒対象

実態に応じた
学習支援
生活支援



適応指導教室への支援

広域訪問指導員による適応指導教室訪問

(県内15教室)

- | | |
|------|-----------|
| 児童生徒 | 個別相談・学習補助 |
| 相談員 | 懇談・協議 |
| 保護者 | 相談 |



援助・指導の充実

適応指導教室担当者研修会

(年3回)

- ・情報交換
- ・事例検討
- ・講演



ニーズに応じた研修

適応指導教室・学校・家庭との連携

かわら版「コスモス」

(年2回発行)



事業や活動の情報交流

サポートチームの派遣

- ・適応指導教室等で行う学校復帰に向けた支援会議に、教育事務所の生活指導主事やセンターの客員研究主事等が参加

実効性のある方策の協議

※催し物の案内は学校や適応指導教室に配布しています。

教育相談部では、文部科学省の「いじめ対策・不登校支援等推進事業」を受け、市町教育センター・適応指導教室と連携を図りながら、小・中学校の不登校児童生徒の自立を支援する「問題を抱える子ども等の自立支援事業」を実施しています。運営協議会を年間2回開催し、事業計画について協議したり、本事業の成果を紹介し合ったりすることで、不登校児童生徒の適切な支援が県内に行き渡ることを目的としています。

学校におじゃまして取材し、みなさんに各校の取組の様子をお届けします。

学校レポート

高大接続改革を見据えた変革期の取組 —「新たな学び創造事業」拠点校として—

富山県立砺波高等学校

来年度創立110周年を迎える砺波高校は、「道義為之根」「質実剛健」「自彊不息」「進取而敢為」の校訓のもと、社会の様々な分野でリーダーとして活躍できる人材を数多く育ててきました。

砺波高校は、平成28年度にICT教育モデル校に指定され、ICT教育の先進校として、タブレットやプロジェクタ等を活用した授業改善に取り組んでいます。また、今年度より始まった「新たな学び創造事業」の拠点校の一つとして、新学習指導要領に示された主体的・対話的で深い学びの視点から、大学入学共通テスト等にも対応できる確かな学力を育成するための様々な実践を進めています。ICT教育モデル校として培ったICT活用スキルを、「新たな学び創造事業」とリンクさせることで、効果的に授業改善を推進しているそうです。



家庭科におけるグループワーク

砺波高校で行われている「新たな学び創造事業」は、日々の授業実践に加えて、「校内研修」と今年立ち上げた「学校活性化委員会」が2本の柱となっています。校内研修は、大学の先生などを招くなどして、授業改善や高大接続改革などをテーマとした講義やワークショップを行っています。先生方自身が理解の必要性を感じ、積極的に取り組んでいるそうです。学校活性化委員会は、参加が希望制のワークショップ形式で実施されており、4名程度のグループ毎に、「どうやって学校を変えていくのか」などをテーマに、SWOT分析を用いるなどして、先生方が日頃思っていることを自由に話し合います。この委員会で得られた多数の意見の中から見えてきたものの一つが、学校の魅力の発信です。学校のホームページは、学校の日常風景をもっと保護者や地域の人々に知ってもらおうと頻繁に更新され、積極的に情報発信を行っています。



学校活性化委員会

グローバル化、技術革新、人口減少、そして、教員の世代交代など、教育を取り巻く環境が変わる中、学校をよりよくしていこうという意気込みを実感できる訪問となりました。

リレーエッセイ

「限られた時間の中で」 富山県小学校教育研究会長 富山市立大広田小学校長 井沢 康一

教員生活も最後の年となり、職員と行事等について語り合う日も180日程度（この原稿を書いている時点で）となりました。1つ1つの行事が「最後の行事」と思いながらも、その行事を計画し、実践していくにあたって、いつも以上にその内容を吟味してきたかと問われると「No」と答える方が正しいと思う。

先日、あるテレビで「親と過ごせる残り時間」という番組が放映されていた。ある芸能人Aが「あなたは、あなたの父親と過ごせる残り時間はどのくらいでしょう。」という質問に、「父親の平均余命から考えると、あと13年ほど」と回答していた場面だった。Aは47歳で、父親の年齢は74歳なので、妥当な数字だろうと何気なく見ていると、何とその答えは「13日」という衝撃的な数字だった。思わず単位を間違ったのではないかと思い、画面を見直すと本当に「日」という単位だった。

説明を聞くと、離れて暮らしている場合は、お盆やお正月に親と会う日数は6日、親の家に行っても24時間一緒にいるわけではないので、1日に親と顔を合わせる時間は平均約4時間と考えれば、1年ではたった24時間しかないということであった。平均余命を考えるとこの「13日」は、なるほどと思った。

さて、そう考えると残りは180日ではなくて、数時間しかないということになる。この限られた時間の中で、自分が経験して、伝えるべきと思ったことをどれだけ伝えることができるのか、ちょっと心配になってきた。今日から、もっと職員との時間を充実させようと思った。（継続できるように自分に言い聞かせておきます!）



■執筆者プロフィール

富山市出身 東部教育事務所主任指導主事、主任管理主事、富山市立奥田北小学校長を経て平成28年度より現職（平成30年4月より県小教研会長）

（御意見・感想・学校が元気になるアイデア等お寄せ下さい。）

教育長への直通メールアドレス：ml-powerup@pref.toyama.lg.jp